

Rational Suite® AnalystStudio

入門

バージョン: 2003.06.10

G126-5390-00

WINDOWS 版

法的通知

Copyright © 1998-2003, Rational Software Corporation. All rights reserved.

バージョン番号: 2003.06.10

本マニュアル(「本著作物」)は、アメリカ合衆国その他の国々の著作権法及び種々の条約により保護されています。**Rational Software Corporation** の文書による事前の同意を得ることなく本著作物を複製し又は頒布することは、禁じられています。

本著作物はライセンスに基づいて提供されるもので、ライセンス規定に従う場合にのみ、使用または複製できます。ライセンス契約で明示的に許可されている場合を除き、本著作物または本著作物の複製を第三者に提供することは禁じられています。本著作物の権利または所有権を譲渡することはできません。ライセンス条項の全文については、ライセンス契約書をお読みください。

Rational Software Corporation、Rational、Rational Suite、Rational Suite ContentStudio、Rational Apex、Rational Process Workbench、Rational Rose、Rational Summit、Rational Unified process、Rational Visual Test、AnalystStudio、ClearCase、ClearCase Attache、ClearCase MultiSite、ClearDDTS、ClearGuide、ClearQuest、PerformanceStudio、PureCoverage、Purify、Quantify、Requisite、RequisitePro、RUP、SiteCheck、SiteLoad、SoDa、TestFactory、TestFoundation、TestMate、TestStudio は、Rational Software Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Rational のロゴ、Connexis、ObjecTime、Rational Developer Network、RDN、ScriptAssure、XDE は、Rational Software Corporation の米国およびその他の国における商標です。その他すべての名前は、識別の目的でのみ使用されているものであり、それぞれの会社の商標または登録商標です。

米国特許番号 5,193,180、5,335,344、5,535,329、5,574,898、5,649,200、5,675,802、5,754,760、5,835,701、6,049,666、6,126,329、6,167,534、6,206,584 の請求の範囲内の部分。このほかにも米国特許及び国際特許申請中。

米国政府の権利

このソフトウェアおよび文書は、「商業的コンピュータソフトウェア」、「商業的ソフトウェア」または「使用が制限されたコンピュータソフトウェア」として提供され、規約は該当する DFARS 252.227、DFARS 252.211、FAR 2.101、FAR 52.227 (またそれ以前に定められた条項) に規定されています。本ソフトウェア製品およびドキュメントの使用、複製、または開示は、DFARS 227.7202、FAR 52.227-19 の下位条項 (c)、または FAR 52.227-14 (またはその改訂された規定) に定められるように、該当する **Rational Software Corporation** ライセンス契約書の条項の制約を受けます。

免責事項

本書および関連ソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて使用することができます。そのような使用許諾契約書に別段の明示的な規定がある場合を除き、また、それぞれの国の法律により禁止または制限されている場合を除き、**Rational Software Corporation** は、本メディア、ソフトウェア製品、およびその関連文書について、明示的にも暗黙的にも、商品性に関する保証、非権利侵害性に関する保証、特定目的への適合性に関する保証、取り扱い、使用、または取引行為に伴う保証、およびライセンシーによる静穏無事な製品使用に対する妨害がないことの保証について一切の責任を負いません。

第三者の通知、コード、使用許諾および確認

Portions Copyright © 1992-1999, Summit Software Company. All rights reserved.

Microsoft、Microsoft のロゴ、Active Accessibility、Active Client、Active Desktop、Active Directory、ActiveMovie、Active Platform、ActiveStore、ActiveSync、ActiveX、Ask Maxwell、Authenticode、AutoSum、BackOffice、BackOffice のロゴ、bCentral、BizTalk、Bookshelf、ClearType、CodeView、DataTips、Developer Studio、Direct3D、DirectAnimation、DirectDraw、DirectInput、DirectX、DirectXJ、DoubleSpace、DriveSpace、FrontPage、Funstone、Genuine Microsoft Products のロゴ、IntelliEye、IntelliEye のロゴ、IntelliMirror、IntelliSense、J/Direct、JScript、LineShare、Liquid Motion、Mapbase、MapManager、MapPoint、MapVision、Microsoft Agent のロゴ、Microsoft eMbedded Visual Tools のロゴ、Microsoft Internet Explorer のロゴ、Microsoft Office Compatible のロゴ、Microsoft Press、Microsoft Press のロゴ、Microsoft QuickBasic、MS-DOS、MSDN、NetMeeting、NetShow、Office のロゴ、Outlook、PhotoDraw、PivotChart、PivotTable、PowerPoint、QuickAssembler、QuickShelf、RelayOne、Rushmore、SharePoint、SourceSafe、TipWizard、V-Chat、VideoFlash、Visual Basic、Visual Basic のロゴ、Visual C++、Visual C#、Visual FoxPro、Visual InterDev、Visual J++、Visual SourceSafe、Visual Studio、Visual Studio のロゴ、Vizact、WebBot、WebPIP、Win32、Win32s、Win64、Windows、Windows CE のロゴ、Windows のロゴ、Windows NT、Windows Start のロゴ、XENIX は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Ultra、AnswerBook 2、medialib、OpenBoot、Solaris、Java、Java 3D、ShowMe TV、SunForum、SunVTS、SunFDDI、StarOffice、および SunPCi は、Sun Microsystems の米国および他の国における商標または登録商標です。

Purify は、Sun Microsystems, Inc. の米国特許番号 5,404,499 の下にライセンス供与されています。

Globetrotter ソフトウェア (FLEXIm ライブラリおよびユーティリティ) の本来の用途は、ソフトウェアライセンス管理であり、他の製品またはアプリケーションにこれらのソフトウェアを組み込むことは、ライセンスに含まれません。

BasicScript は、Summit Software Company の登録商標です。

デザイン パターン: Erich Gamma、Richard Helm、Ralph Johnson および John Vlissides による再使用可能なオブジェクト指向のソフトウェアのエLEMENT。Copyright © 1995 by Addison-Wesley Publishing Company, Inc. All rights reserved.

追加の法的通知は、お客様の Rational ソフトウェア インストールに含まれています。

目次

まえがき	vii
対象読者	vii
その他の参照先	vii
Rational カスタマ サポートの連絡先	viii
Rational Suite のマニュアル構成	ix
 Rational Suite AnalystStudio について	1
AnalystStudio とは	1
ビジネス、アプリケーション、データ モデラの接続	1
ユース ケース機能の利用	1
変化する要求の獲得と管理	2
AnalystStudio の構成	2
 AnalystStudio での作業	5
アナリストの役割	5
作業開始の準備	6
Rational Unified Process について	7
統一変更管理 (UCM) について	8
プロジェクト Web サイトでの公開	9
ビジネス モデリング	10
データ モデリング	10
ClearQuest を使用した拡張依頼の管理	12
ClearQuest を使用して、RequisitePro に機能要求を作成する方法	14
RequisitePro を使用した要求管理	18
Rose と RequisitePro を使用したユース ケースの管理	22
Rose でのユース ケースのモデリング	26
Rational Rose からのユース ケースの管理	27
SoDA を使用したレポートの生成	30
ユース ケース モデル調査	30
Rational TestManager	32
統一変更管理 (UCM) モデルの実装	32

AnalystStudio の管理とカスタマイズ	33
Rational Administrator プロジェクトの概要	33
Out of the Box (OOTB) 成果物の使用	34
ClearQuest と RequisitePro の統合	34
ClearQuest スキーマのカスタマイズ	35
ClearQuest を介して Web 上で有効になる機能	36
RequisitePro のプロジェクトのカスタマイズ	36
SoDA テンプレートの作成	37
成果物用のプロジェクト Web サイトの作成	37
 付録	 39
要求ワークフロー	39

まえがき

Rational Suite®は包括的な統合ツールであり、ソフトウェア開発における最善の実践原則を具体化すると共に、ソフトウェア開発工程全体をカバーします。また、Rational Suite は高度に統合されているため、チーム内およびチーム間のコミュニケーションの向上、開発期間の短縮、およびソフトウェア品質の向上を実現できます。

対象読者

本書は、さまざまなタイプのアナリストの多種多様なニーズを満たすよう構成されています。

その他の参照先

- **オンライン ヘルプ:** AnalystStudio ツールのオンライン ヘルプはいつでも表示できます。ヘルプの内容を表示するには、任意の Suite ツールから [ヘルプ] オプションをクリックし、表示されるメニューからオプションを選択します。また、表示されているダイアログ ボックスのヘルプ ボタンをクリックしても表示できます。
- **オンライン マニュアル:** マニュアルはすべてオンライン (HTML 形式または PDF 形式) で参照できます。オンライン マニュアルは、Rational™ Solutions for Windows のオンライン ドキュメント CD-ROM に収録されています。www.rational.com/documentation からダウンロードすることもできます。ただし英語のみでのご利用となります。
- Rational Suite のドキュメント セットには、次のドキュメントが付属しています。
- 『Rational Suite インストレーション ガイド』: Rational Suite ソフトウェアのインストールとライセンスのセットアップ方法に関するガイドです。
- 『Rational Suite チュートリアル』: Rational Suite の管理、同期、すぐに利用できるツールとその機能について説明されています。このマニュアルには、RequisitePro と ClearQuest® の統合の設定に関する章が含まれます。
- 『Rational Suite 管理ガイド』: 重要な管理プログラムである Rational Administrator の使用方法と参照情報が記載されています。Rational Administrator は、Rational Suite でのさまざまな製品統合を可能にします。
- 『Rational Suite リリース ノート』: Rational Suite 製品についての最新技術情報です。

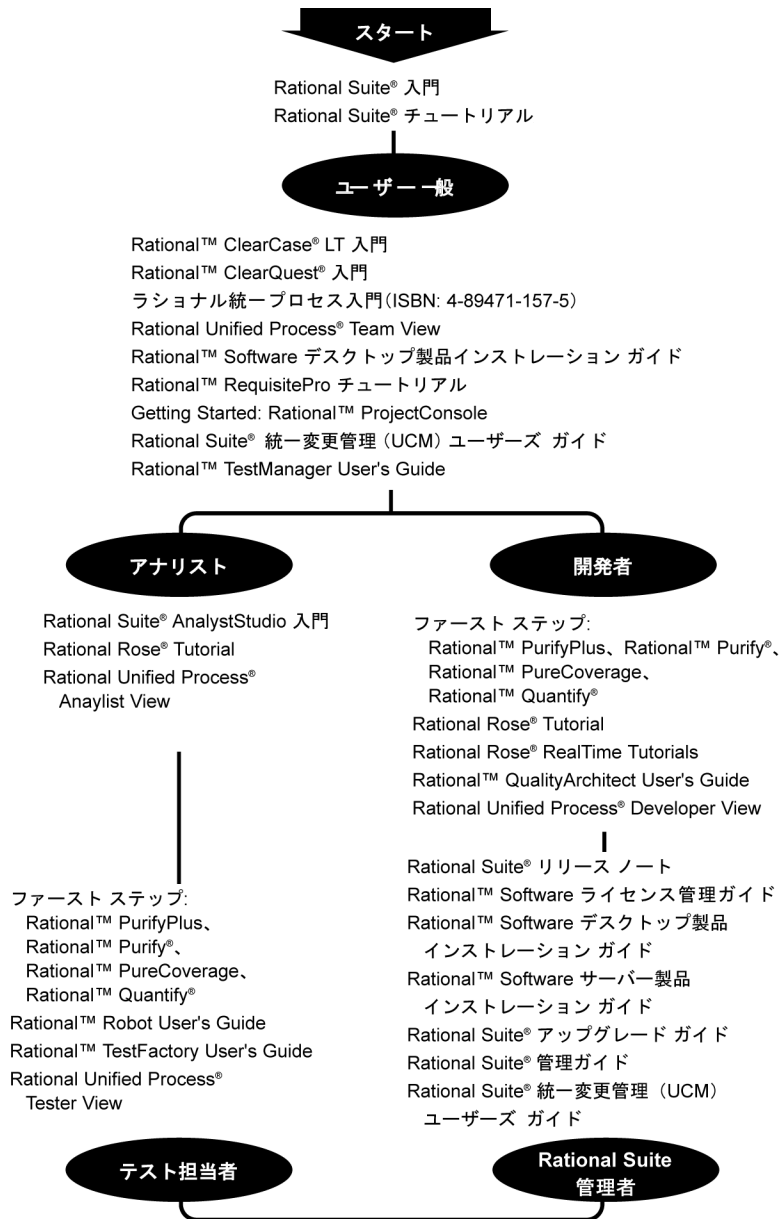
- **製品マニュアル:** 各 Rational Suite 製品には、利用者に応じたドキュメントセットが付属しています。
- **Let's Go AnalystStudio:** このヘルプ インターフェイスにアクセスするには、[スタート] メニューの [プログラム] をポイントします。次に [Rational Suite AnalystStudio] をポイントし、[Let's Go AnalystStudio] をクリックします。このヘルプには、新しいユーザー向けの「入門」情報が記載されています。また、Suite の各製品のオンライン ヘルプへのリンクもあります。上級ユーザーは、このヘルプからホワイトペーパー、Rational Unified Process®、Web リソースなど、より詳細な関連ドキュメントにアクセスすることができます。
- **Rational トレーニング サービス:** トレーニング コースの詳細については、ラショナルユニバーシティの Web サイト <http://www.rational.co.jp/services/ru/> を参照してください。

Rational カスタマ サポートの連絡先

本製品のインストール、使用、または保守に関するご質問については、以下の Rational カスタマ サポートまでお問い合わせください。

地域	電話	Fax	電子メール
アジア太平洋 (日本を含む)	+61-2-9419-0111	+61-2-9419-0123	support@apac.rational.com (英語のみ対応) support@japan.rational.com (日本語対応可)

Rational Suite のマニュアル構成



Rational Suite AnalystStudio について

1

AnalystStudio とは

企業が直面しているビジネス、システム、マーケティング上の問題を分析し、これらの問題に効果的に対処できるシステムとアプリケーションを定義するのは、極めて複雑な作業です。**Rational Suite AnalystStudio** は、問題領域の把握、効果的なソリューションの定義と情報伝達、開発工程全般を通じた変更管理を支援することによって、この複雑な作業を管理することを可能にするソフトウェア ツール スイート製品です。**AnalystStudio** が提供するツールと技法を使用して、問題を的確に解決し、最適なソリューションを定義できます。

ビジネス、アプリケーション、データ モデラの接続

ビジネス上のニーズ、ユーザーの要望、システム要件、データベース要件など、問題領域のあらゆる側面を完全に理解していなければ、ソリューションを定義することはできません。ビジュアル モデリングを使用すると、システムを容易に定義することができます。**AnalystStudio** では、ビジネス アナリスト、システム アナリスト、データ アナリストが開発したモデルを、単一のツール、単一の表記法で開発できるため、ビジネス、アプリケーション、データ モデラの接続が可能です。

Rational Rose® は、ビジネス アナリスト、システム アナリスト、データ アナリストのモデリング結果を 1 つにまとめ、解決すべき問題を分かりやすくまとめた共通の「見取り図」を提供します。この統合モデリング ツールでは、業界標準のモデリング表記法 (統一モデリング言語) を共通言語として使用するので、チーム内での情報伝達を効率化することができます。各グループは、それぞれのドメインを視覚的にビジュアル モデリングできます。ビジネス モデル、システム モデル、データ モデルは互いに関連しているので、これらのモデルは **Rose** 内で自動的に関連付けられ、変更を追跡できます。**AnalystStudio** では、アナリストをチームの残りのメンバーと統合し、アプリケーションを構築する安定した土台を作成できます。

ユース ケース機能の利用

アナリストは、すべての利害関係者に、要求を明確かつ効果的に伝達する必要があります。システム要求をユース ケースで記述することにより、チームのメンバーは、システムが満たすべき要件をユーザーの立場からより詳細に把握し、リスクの高いシステム コンポーネントを判断することができます。ユース ケース パラダイムを使用した要求の取り込みと伝達には、次の利点があります。

- エンドユーザーが理解しやすい。
- 設計どおりにシステムを実装できる。
- システムを正確にテストできる。

ユースケースの作成、管理、モデリングを1つの統合ソリューションとして提供する Rational のツールは、ユースケース機能の利用を支援します。

変化する要求の獲得と管理

プロジェクトの失敗に共通する大きな原因の1つは、要求と仕様が不完全で不正確なことです。要求事項をまとめるには、使い慣れた Microsoft Word を使用して、状況や補足情報を記述したドキュメントを作成するのが一般的です。Rational RequisitePro では、Word ドキュメント内の要求と選択したエンタープライズデータベースとを統合することにより、ドキュメント内のデータベース機能を使用して、要求を体系化し、優先度を設定し、要求間の関係や要求への変更を追跡することができます。

AnalystStudio には、追跡可能性を簡単に設定および分析するためのメカニズムが備わっているので、避けられない変更を処理することができます。変更がリアルタイムで画面に表示されるので、その変更がプロジェクト全体に及ぼす影響を特定できます。AnalystStudio では、要求変更の獲得と管理を支援することにより、プロジェクトの目的を確実に達成できるようにします。

AnalystStudio の構成

AnalystStudio は、問題分析とシステム定義を目的として設計された Rational Suite の製品であり、チーム統合に必要なすべてのツールを備えています。AnalystStudio には、以下のツールが含まれます。

- **Rational ClearCase® LT:** プロジェクトのワークグループ用のソフトウェア構成管理ソリューションです。ClearCase LT では、統一変更管理 (UCM) を使用した、ソフトウェアプロジェクトのベースラインを支援します。
- **統一変更管理 (UCM):** ソフトウェアシステム開発における変更を要求からリリースまで管理できる、Rational の総合的で便利な使用モデルです。UCM は、設定管理と変更依頼管理のための総合的なアプローチであり、Rational ClearCase と Rational ClearQuest で自動化されています。ClearCase を設定して、基本的なアクティビティベースの設定管理のための UCM モデル、または ClearQuest を併用することによる完全な変更依頼管理を実装することができます。
- **Rational RequisitePro:** 開発工程全般を通じて、要求の作成と管理を支援する要求管理ソフトウェアです。

- **Rational Rose Data Modeler Edition:** 業界標準の統一モデリング言語 (UML) を使用し、アーキテクチャ要求をグラフィック形式で伝達できます。このプロフェッショナル仕様の Rational Rose は、Rational Rose Modeler Edition のコア機能に強力な Data Modeler アドイン機能を追加したものであり、データベース設計エンジニアを全面的にサポートします。
- **Rational ClearQuest:** 柔軟で包括的な変更依頼管理システムです。ソフトウェア開発チームは、障害と拡張依頼を追跡し、対処することができます。
- **Rational SoDA for Word:** ソフトウェア開発プロジェクトに必要なドキュメントとレポートを自動的に作成、管理できます。
- **Rational TestManager:** テストの計画、テストアセットの管理、クエリーとレポートの実行を支援します。
- **Rational ProjectConsole:** プロジェクトの進行状況の監視、傾向の特定、プロジェクトの予測性の向上を支援します。開発環境から成果物とメトリクスを自動的に収集して Web サイトを作成し、プロジェクト情報へのアクセスを容易にします。Rational ProjectConsole は Microsoft® Project と統合されており、広範なグラフィカルレポートとダッシュボード表示を提供します。ユーザーやプロジェクトチームは、あらゆる情報を網羅した最新のプロジェクト進行状況を確認することができます。
- **Rational Unified Process:** ソフトウェア開発プロセスの役割を定義して、方向性を示します。

この章は、Rational Suite AnalystStudio を使用するすべてのアナリストを対象としています。ここでは、以下のタスクを実行する方法を説明します。

- ClearQuest を使用した利害関係者の依頼の管理。
- 利害関係者の依頼と要求の関連付け。
- RequisitePro を使用した要求の管理。
- 要求とユース ケース モデルの関連付け。
- RequisitePro と Rose を使用したユース ケースの管理。
- Rose からの SoDA レポートの生成。
- Rational Unified Process (RUP) の構成と、カスタマイズしたプロセスまたはプロジェクト Web サイトへの公開。
- 統一変更管理 (UCM) の実装。

アナリストの役割

アナリストは、ユーザーのニーズを理解し、システム構築に関わる社内のすべてのチーム メンバーにそのニーズを正確に伝達する必要があります。また、顧客の問題点を的確に定義し、最適なシステム ソリューションを判断する責任があります。この目的を達成するために、アナリストは以下の役割を果たします。

- **収集:** システム定義への依頼や入力を収集し、選択された依頼を製品リリースで実装できる実際の要求に変えます。
- **管理:** すべての要求が適切に実装およびテストされるように、個々の要求を管理、追跡します。
- **伝達:** これらの重要な情報をすべてのチーム メンバーに伝達します。

アナリストによる上記の 3 つの活動を支援するために、AnalystStudio は次のツールを提供します。目標は、開発チームが共通の環境で迅速に作業を開始できるようにすること、プロジェクトの初期段階と分析段階で特定した当初の目的を満たすシステムを顧客へ確実に提供することです。

アナリストのタスク	AnalystStudio の対応するツール
依頼の収集	ClearQuest Web、ClearQuest、ClearQuest と RequisitePro の統合
要求管理	RequisitePro と RequisiteWeb
モデリング	Rational Rose Professional Data Modeler Edition
要求の伝達	Rational Unified Process、RequisitePro Word インターフェイス、Rose、Rose と RequisitePro の統合、Rose Web Publisher、SoDA
テストの設計	Rational TestManager
変更の管理	ClearCase LT、Rational Administrator

この章では、プロジェクトの初期段階で利害関係者から収集した拡張依頼について説明し、その開発工程全般を追います。次のスキルについて詳しく説明します。

- 拡張依頼から要求を作成。
- 要求から新規ユース ケースを作成。
- 新規ユース ケースの管理とモデリング。
- 利害関係者、チーム メンバー、管理者が共有する利用価値のあるレポートを生成。

AnalystStudio の各ツールには、充実したオンライン ヘルプと詳細な製品マニュアルが用意されています。説明で取り上げられたツールについて疑問がある場合は、そのソフトウェアのオンライン ヘルプまたは関連マニュアルを参照してください。

作業開始の準備

Rational Suite での作業の最初の手順は、プロジェクト管理者または管理権限を持つ開発チームメンバーによるセットアップです。Rational Suite AnalystStudio の場合は、管理者が Rational Administrator プログラムを使用して、以下の成果物を含むプロジェクトを作成します。

- ClearQuest データベース
- RequisitePro のプロジェクト
- 1 つ以上の Rose モデル

さらに、ClearQuest と RequisitePro の統合を有効化し、構成する必要があります。ClearQuest と RequisitePro の統合の有効化と構成の詳細については、『Rational Suite 管理ガイド』の「ClearQuest と RequisitePro の統合の設定」を参照してください。

本書で紹介されている処理手順を実際に試す場合は、
<http://www.rational.com/support/documentation> から入手可能な、『Rational Suite チュートリアル』
のデータと既存の Rational Suite プロジェクトを使用してください。ただし、英語のみでのご
利用となります。このデータのインストールとセットアップの詳細については、『Rational Suite
チュートリアル』を参照してください。

Rational Unified Process について

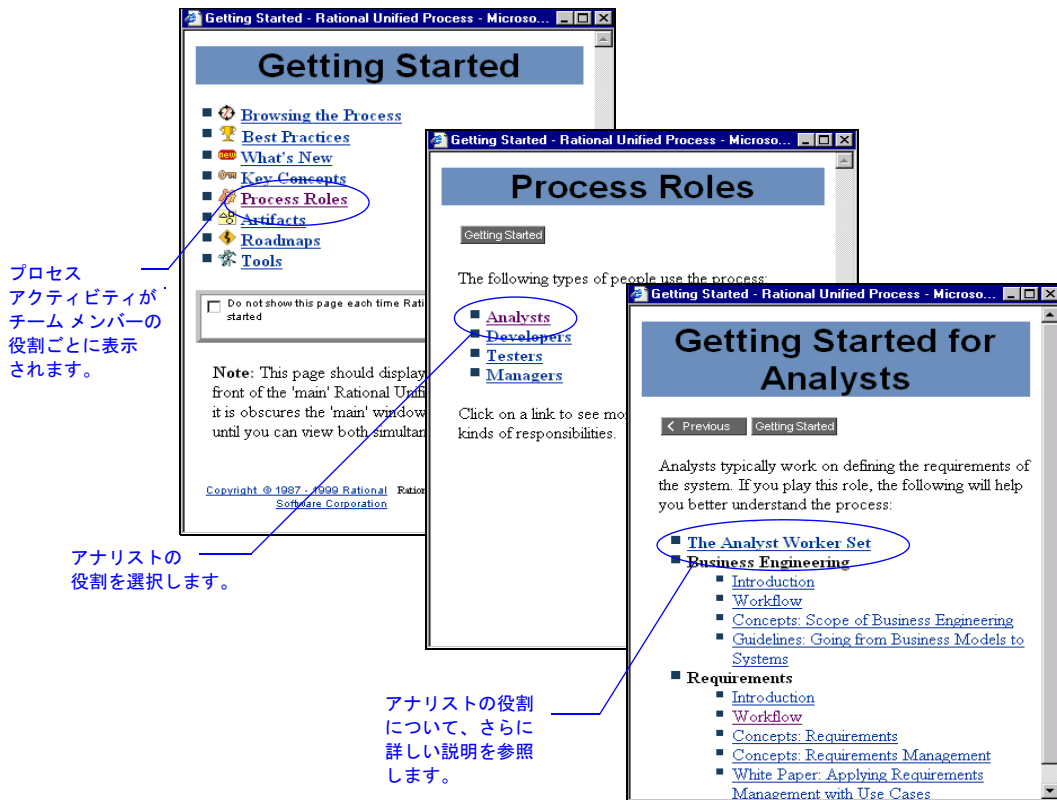
Rational Unified Process (RUP、従来の Rational Objectory Process) は、Web ベースの検索可能な
知識ベースです。この知識ベースは、ワークフロー、テンプレート、ツール メンターを通じて、
ソフトウェア開発の重要なアクティビティのための最善の実践原則を実現します。作業スタッフ、
作業スタッフのアクティビティ、作業スタッフが管理する成果物のための詳細なガイドライン
も含まれます。

この知識ベースは、使用しやすい上に、RUP の習得を促進するよう設計されているので、開発
チームは業界標準の統一モデリング言語 (UML) の利点を最大限に活用することができます。

RUP は、Rational Suite AnalystStudio に含まれています。RUP のヘルプ トピックは、チーム
メンバーの役割ごとに表示されます。必要であれば、チームのアナリスト向けのプロセス ガイド
を参照してください。

例: Rational Unified Process のアナリスト向け「入門」を表示するには

Windows の [スタート] メニューの [プログラム] をポイントします。次に [Rational Suite AnalystStudio] をポイントし、[Rational Unified Process] をクリックします。RUP ブラウザが表示されます。以下の図に示すリンクをクリックします。



統一変更管理 (UCM) について

統一変更管理 (UCM) は Rational の優れた使用モデルで、要求からリリースまで、ソフトウェアシステム開発における変更を管理します。UCM を使用して特定のマイルストーンでバージョンにベースラインを設定して、開発作業を向上できます。AnalystStudio には UCM を実装するために必要なツールと方法の説明が用意されています。

UCM の詳細については、オンライン ドキュメント CD-ROM に収められている『Rational RequisitePro ユーザーズガイド』の「RequisitePro での Rational ClearCase の使用法」または RequisitePro オンラインヘルプの「UCM」を参照してください。

プロジェクト Web サイトでの公開

プロジェクト Web サイトは、Rational ツールに固有ではないプロジェクトの成果物を、すべてのチーム メンバーがアクセスできる場所に公開するために開発チームが使用するカスタマイズされた Web サイトです。

開発チームの多くは、RUP を全体的に、または部分的に使用します。組織のニーズに合わせてプロセスを変更できます。プロジェクト Web を使用して、カスタマイズされたプロセスや、以下のようなプロジェクトの成果物を保存できます。

- チーム メンバーの名前
- 連絡先
- プロジェクトまたはシステム全体に適用される規約
- マイルストーンの日付
- ワークフロー
- プロジェクトの参照情報
- 開発ケースと関連ドキュメント
- 開発工程全般で使用する方

Rational Unified Process のプロジェクト Web サイトにより、すべてのチーム メンバーが同じ目標に向かって作業を進められるように、便利でアクセスしやすい場所が確保されます。

Rational Unified Process には、プロジェクト Web サイトテンプレートがあります。このテンプレートを使用して、独自のプロセスをオンラインで作成できます。

例：プロジェクト Web のセットアップ方法の参照

- 1 Windows の [スタート] メニューの [プログラム] をポイントし、[Rational Suite AnalystStudio] をクリックします。次に、[Rational Unified Process] (フォルダ) の [Rational Project Web Example] をクリックします。プロジェクト Web テンプレートが表示されます。
- 2 このページの [Creating Your Project Web] と [Modifying the Tree browser] のハイパーリンクをクリックします。プロジェクト Web テンプレートのセットアップと使用方法に関する詳しい説明が表示されます。

詳細については、『RUP プロセス エンジニア ツールキット ユーザーズ ガイド』の「プロジェクト Web の操作」という題の RUP ツールキットを参照してください。本書の 37 ページの「成果物用のプロジェクト Web サイトの作成」も参照してください。

ビジネス モデリング

ビジネス アナリストは、ソフトウェア アプリケーションがさまざまな環境で使用されるということを常に意識する必要があります。ビジネス アナリストはビジネス モデルを作成して、組織のアクティビティやフローを理解します。このモデルは、このビジネスに対する利害関係者とチーム メンバーの共通の視点になります。完成したビジネス モデルから、組織内の現在の問題が発見され、認識されることがあります。このような問題は開発サイクルで対処できます。ビジネス モデルは、アプリケーション環境が非常に複雑なときや、ニーズの異なる多くの人々がシステムを使用するときに非常に有益です。

UML 表記法を使用したビジネス モデルリングは、AnalystStudio 内の Rational Rose で行います。ビジネス モデリングの詳細については、ホワイト ペーパー「Rational Suite AnalystStudio によるビジネス モデリング」を参照してください。また、Rational Rose オンライン ヘルプの「Business Modeling」も参照してください。

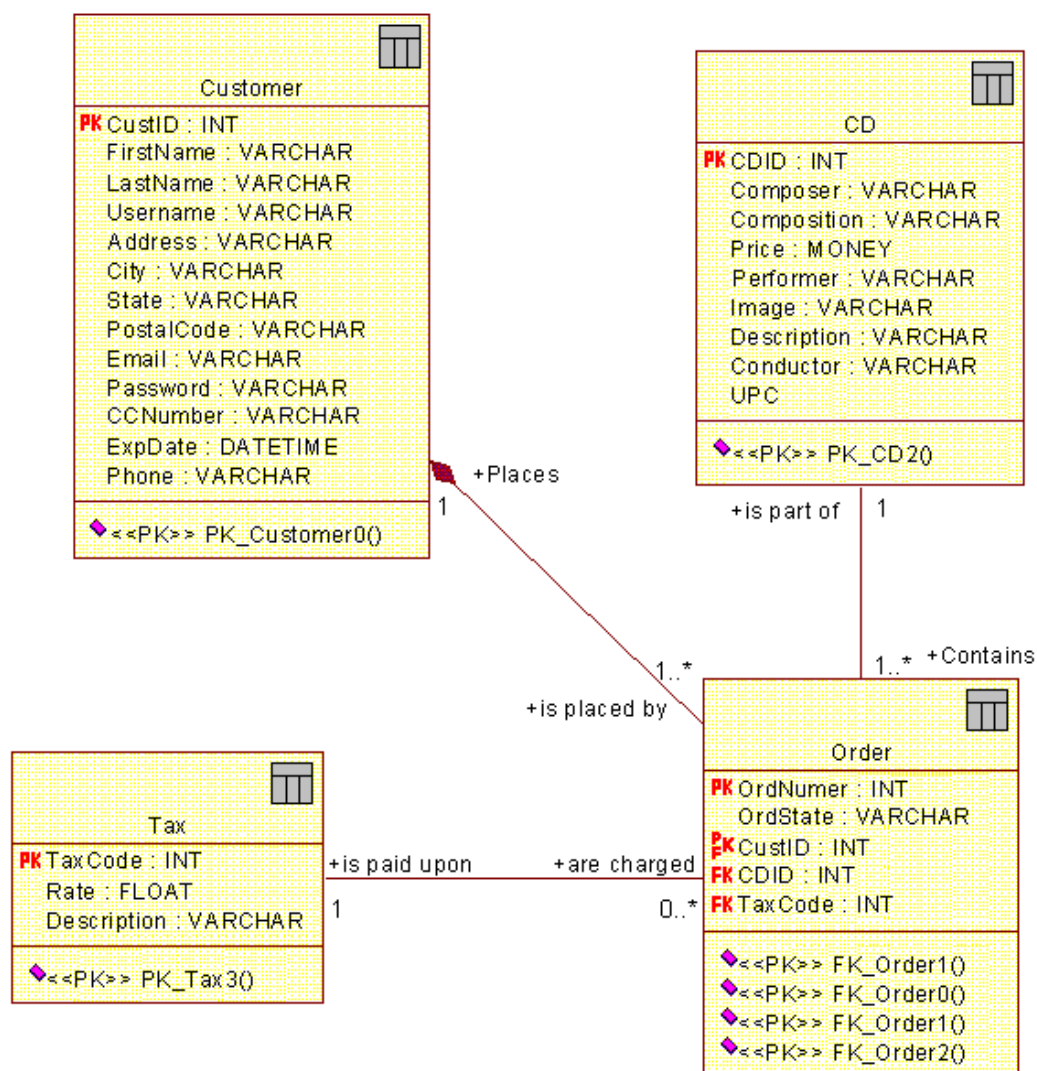
データ モデリング

Rational の Rational Rose へのデータ モデリング機能の追加により、ソフトウェア開発チームは統合モデリングを使用できます。統合モデリングは、データ アナリストが開発チームの重要な役割を担うように設計されており、組織内の情報伝達を促進します。Rational Rose Data Modeler は UML 方式のデータ モデリング ツールです。データ モデラ、開発者、ビジネス アナリストは、単一の表記法と単一のツールを使用して、ビジネス要求を獲得および共有し、開発プロセス過程でのビジネス要求の変更を追跡できます。

Data Modeler を使用すると、Rational Rose モデルから UML 表記法を使用したデータベーススキーマを生成できます。データベース スキーマは以下のようなデータベース機能をサポートしています。

- テーブル、列、インデックス、関係、キー (主キーと外部キー) の作成。
- 列制約と、宣言参照整合性 (DRI) と参照整合性のトリガの作成。
- カスタム トリガと生成されたトリガ コードの作成。
- モデル用の図の複数作成。

図 1 Rational Rose データ モデル



Rational Rose を使用したデータ モデリングの詳細については、Rational Rose オンラインヘルプの「Rose Data Modeler」を参照してください。

ClearQuest を使用した拡張依頼の管理

ソフトウェア アプリケーション開発において、RUP では、まず、インタビュー、ワークショップなど各種の手法によって、利害関係者から要望やニーズを引き出すことを推奨しています。ソフトウェア アプリケーションの最初のリリースを作成した後も、利害関係者やユーザーから拡張依頼や変更依頼が提出されたとき、要求内容を逐次見直さなければなりません。

ClearQuest には、こうした依頼を収集、管理し、すべてのチーム メンバーに伝達する方法がいくつかあります。利害関係者とリモート サイトのチーム メンバーは、ClearQuest Web インターフェイスを使用して、離れた場所から情報を入力できます (ClearQuest Web の詳しい使用方法是、ClearQuest Web のオンライン ヘルプまたはユーザーズ ガイドを参照してください)。次の図は、ClearQuest Web ユーザー インターフェイスの一例です。

The screenshot displays the ClearQuest Web interface for submitting an enhancement request. The header includes the Rational logo, the text 'the e-development company', the database name 'Database RMBU', and a timestamp '3/3/00 2:13:08 PM'. The main title is 'Submit Enhance_Request RMBU00011455'. Below the title are navigation links: 'Main', 'Attachments', 'Contact Information', and 'Requirements'. The form itself has a blue header bar with the word 'Main'. The form fields include: 'Headline:' (text input), 'ID: RMBU00011455', 'State: Submitted' (dropdown), 'Project:' (dropdown), 'Customer Priority:' (dropdown), 'Origin:' (dropdown), and 'Description:' (text area). At the bottom left, it says 'CQ Schema Version: 112'. On the left side of the form, there are 'OK' and 'Cancel' buttons.

提出された依頼は、中央の ClearQuest 変更依頼データベースに自動的に保存され、使用できるようになります。

メモ：拡張依頼が提出されたら、各依頼にさらに詳しい情報を追加します。通常は、分析プロセスに必要なすべての機能を備えた ClearQuest Windows アプリケーションで作業します。

AnalystStudio を使用する場合、ClearQuest により、レコードフォームにデフォルト タブ以外のタブが表示されます。これらのタブは環境に応じてカスタマイズできます。次のようなタブが表示されます。

- [履歴] タブ
- [解決] タブ
- [メモ] タブ
- [分析] タブ

[分析] タブ (下の図を参照) では、提出された情報に追加情報を補足することによって、この依頼がほかの依頼の中で適切に編成されるようにします。たとえば、利害関係者が [顧客側の優先度] を [高] に設定していても、拡張依頼がプロジェクトのビジネス目標から外れている場合は、その依頼の [マーケティング優先度] 属性を [低] に設定できます。

メイン | 分析 | 顧客 | 欠 | 解決 | 添付 | 履歴 | 要求

マーケティング優先度 (M): 低

依頼タイプ (R): 新機能

製品 (P): 製品 A

製品の領域 (A): GUI

目標リリース日 (D): 2.0

所有者 (O): admin

適用

元に戻す

レコードの印刷

アクション ▼

ID: 00000041

ClearQuest を使用して、RequisitePro に機能要求を作成する方法

拡張依頼が収集されたら、このユーザー フィードバックをシステム定義に取り込みます。
ClearQuest で、必要な情報を追加した ClearQuest レコードから RequisitePro 要求を作成します。

各リリースの初期段階およびソフトウェア開発サイクルの開始時に、ClearQuest で現在の拡張依頼を確認し、新規要求を作成する依頼や既存の要求を変更する依頼を決定します。

システム機能に反映する各拡張依頼について、拡張依頼の内容を有効な要求定義に公式化して、要求を作成します (適切に定義された要求とは、テストが可能で、曖昧な点がなく、必要な情報をすべて備えた要求です)。このような要求が既に存在する場合は、拡張依頼を既存の関連する要求に関連付けます。Rational プロジェクトでは、各拡張依頼を複数の要求と関連付けたり、各要求を複数の拡張依頼と関連付けることができます。

拡張依頼と要求を関連付けるには、ClearQuest のデータベースと RequisitePro のプロジェクトが同じ Rational プロジェクトの一部である必要があります。

メモ : ClearQuest Windows アプリケーションを使用して、レコードを要求に関連付ける必要があります。

例：拡張依頼と要求の関連付け

- 1 ClearQuest の拡張依頼で、その拡張依頼に関連付ける要求のソースとして Rational Administrator プロジェクトを選択します。

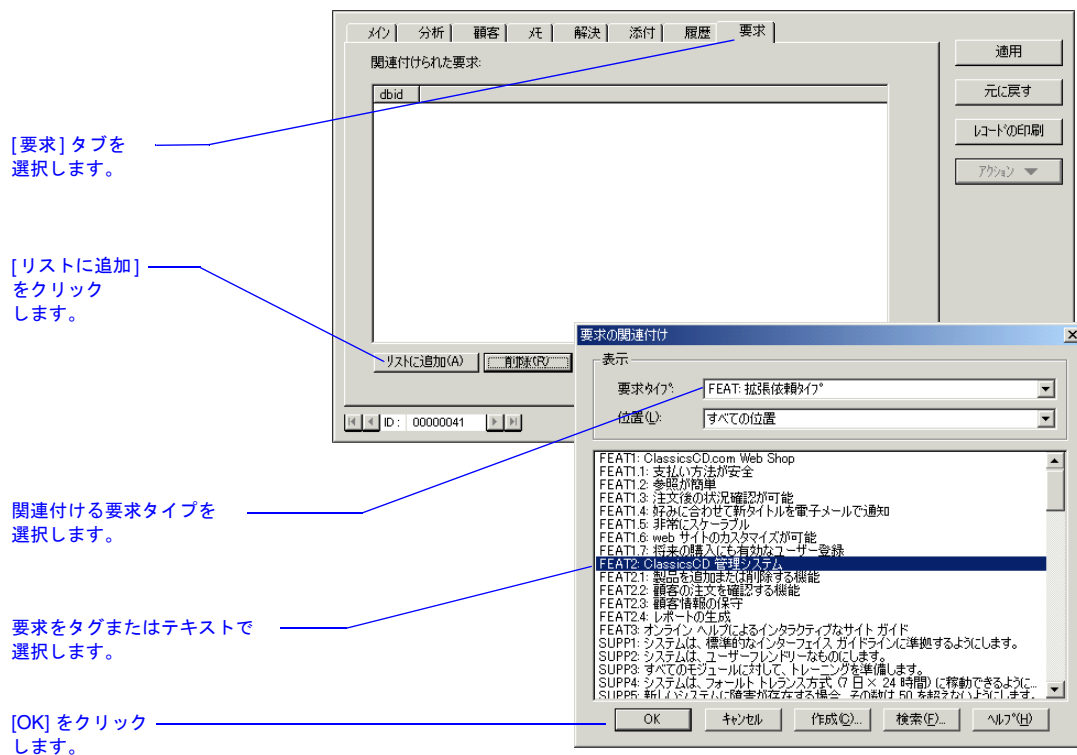
[メイン] タブを
クリックします。

レコードを
編集するには、
[アクション] の
[修正] をクリック
します。

要求を関連付ける
Rational Administrator
プロジェクトを選択し
ます。

The screenshot shows the ClearQuest interface with the 'Main' tab selected. The record ID is SAMPLE0000042, status is '登録済み', and the description is 'toto'. The 'RAプロジェクト' dropdown is set to '低'. The '顧客側の優先度(P)' dropdown is set to '低'. The '説明(Q)' field is empty. The 'アクション' dropdown is set to '修正'.

- 2 拡張依頼 (タグとテキストにより要求を表示する) に対応する既存の要求がないかどうかを確認し、該当する要求をすべて関連付けます (関連する要求がない場合は、新規要求を作成します。要求の作成方法は、手順 3 を参照してください)。



3 拡張依頼に関連付ける新規要求を作成します。

[要求] タブを選択します。

[リストに追加] をクリックします。

作成する要求タイプを選択します。

[作成] をクリックします。

要求テキストを入力します。

[OK] をクリックします。

要求の関連付け

表示

要求タイプ: FEAT: 拡張依頼タイプ

位置: すべての位置

FEAT1: ClassicsCD.com Web Shop
FEAT1.1: 支払い方法が安全
FEAT1.2: 参加が簡単
FEAT1.3: 注文後の状況確認が可能
FEAT1.4: 好きな合わせて新タイトルを電子メールで通知
FEAT1.5: 非常にスケーラブル
FEAT1.6: web サイトのカスタマイズが可能
FEAT1.7: 相手の購入にも有効なユーザー登録
FEAT2: ClassicsCD 管理システム
FEAT2.1: 製品を追加または削除する機能
FEAT2.2: 顧客の注文を確認する機能
FEAT2.3: 顧客情報の保存
FEAT2.4: レポートの生成
FEAT3: オンライン ヘルプによるインタラクティブなサイト ガイド
SUPP1: システムは、標準的なインターフェイス ガイドラインに準拠するようにします。
SUPP2: システムは、ユーザーフレンドリーなものです。
SUPP3: すべてのモジュールに対して、トレーニングを準備します。
SUPP4: システムは、フォールトトレランス方式 (7 日 × 24 時間) に稼働できるようにします。
SUPP5: 新しいシステムに障害がなされる場合、その数は 501 を超えることはありません。

OK キャンセル 作成(C)... 検索(E)... ヘルプ(H)

要求のプロパティ: FEAT5: イベントのフロー

全般(G) 改訂(U) 属性(B) 追跡可能性(T) 階層(E) ディスカッション(D)

タイプ(T): FEAT: 基本要件

名前(N):

テキスト(T):

パッケージ名(P): 基本要件と開発構想 参照(R)...

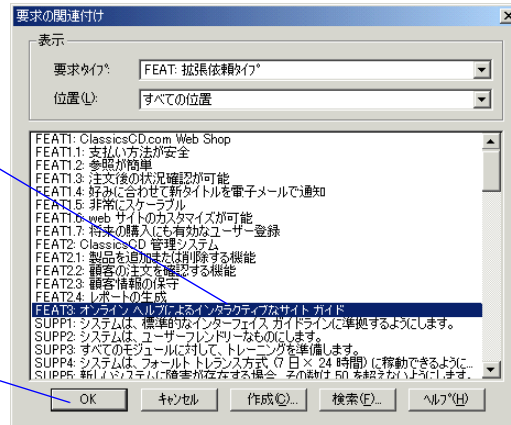
位置: データベース

OK キャンセル ヘルプ(H)

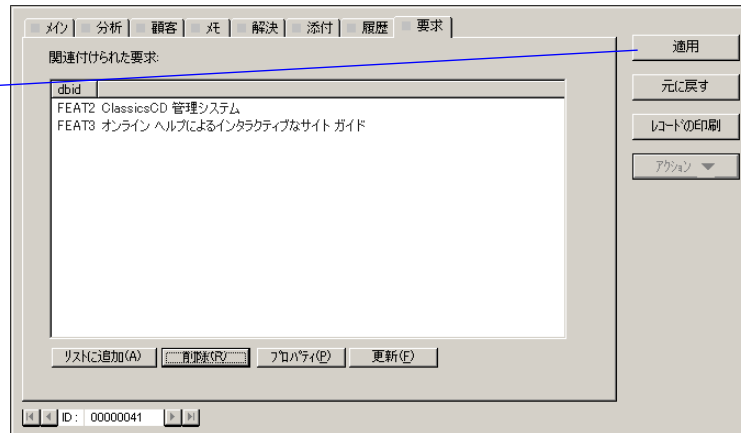
- 4 新しく作成した要求を関連付け、変更内容を保存します。

要求リストの一番下までスクロールし、作成した要求を選択して強調表示します。

[OK] をクリックして新規要求を関連付けます。



[適用] をクリックして関連付けを保存します。



関連付けた要求は、ClearQuest の [要求] タブに表示されます。RequisitePro では、要求自体から関連付けを表示することもできます。

RequisitePro を使用した要求管理

RequisitePro は、要求関連のほとんどの作業で使用する AnalystStudio のコンポーネントです。RequisitePro は、Rational Suite の 4 つのチーム統合ツールのうちの 1 つです (すべての Rational Suite 製品に含まれています)。また、利用者指向の重要なツールでもあります。RequisitePro は、ワードプロセッサが持つ書式設定機能の柔軟性と、市販のデータベースの構造および処理能力を兼ね備えています。

要求を作成したら、RequisitePro でプロジェクトの範囲を管理します。具体的には、各種のクエリーを使用して、ソフトウェアの各リリースに実際に取り込む要求を決定します。各要求に関連する情報は、優先度、ステータス、難易度など、ユーザーが定義する属性によって把握できます。さらに、開発サイクルのほかのコンポーネントに追跡可能性関係を設定し、要求に関わるすべての情報を管理できるようにします。

ClearQuest と RequisitePro の統合は、双方向の統合です。RequisitePro を使用して、要求が基づく拡張依頼や障害を参照したり、新しい関連付けを確立したりできます。以下の図は、RequisitePro での操作を示しています。

要求のプロパティ: UC1: 倉庫に送信された注文情報

全般(G) | 改訂(V) | **属性(B)** | 追跡可能性(T) | 階層(E) | ディスカッション(D)

属性

連絡先氏名:

予定された反復:

実際の反復:

EnhancementRequest:

障害:

OK | キャンセル | ヘルプ(H)

RequisitePro 内で要求を右クリックし、[要求のプロパティ] をクリックします。

[属性] タブをクリックして、[Defect] または [EnhancementRequest] 属性までスクロールします。

ClearQuest レコード ID を入力するか、省略記号ボタンをクリックします。

Associate Enhancement Requests

関連付けられたレコード(A):

	id	State	Headline
1	CLSIC000000053	登録済み	CD サンプルのダウンロード
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

OK(O) | キャンセル(C) | ヘルプ(H) | すべてに適用(A) | 関連付け解除(D)

レコード:

クエリー(E): 個人用クエリーすべての拡張依頼

結果(R):

	id	Headline
1	CLSIC000000049	マルチキート検索をサポートすること
2	CLSIC000000050	複数のデータベースでクエリーを実行できること
3	CLSIC000000053	CD サンプルのダウンロード
4		
5		
6		
7		

参照(R) | クエリーのビルド(B) | 関連付け(A)

関連付けられた要求を表示します。

関連付けるほかの ClearQuest レコードを選択します。

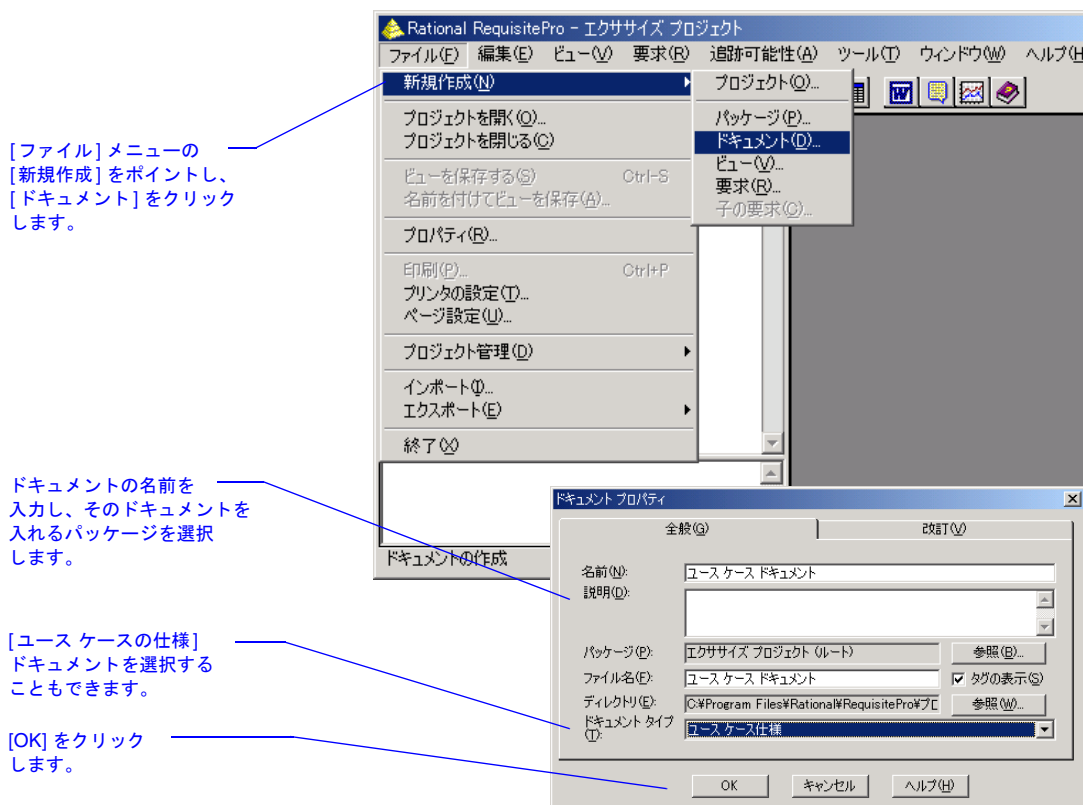
[関連付け] をクリックして、新規レコードを関連付けます。

ある機能要求を満たす新しい機能が必要だと判断した場合、新規ユース ケースを作成して、新機能のモデリングを行います。

メモ : Rose または RequisitePro を使用して新規ユース ケースを作成できます。以下の例では RequisitePro を使用します。

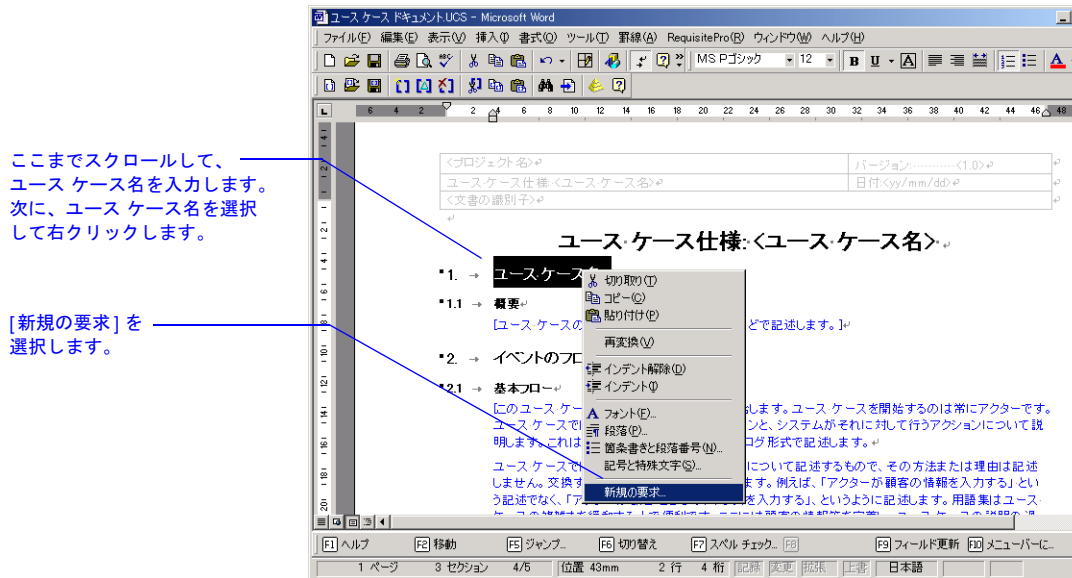
例 : RequisitePro での新しいユース ケース ドキュメントと要求の作成

- 1 RequisitePro と、関連する Rational Administrator プロジェクトを開きます。
- 2 新規ドキュメントを作成します。

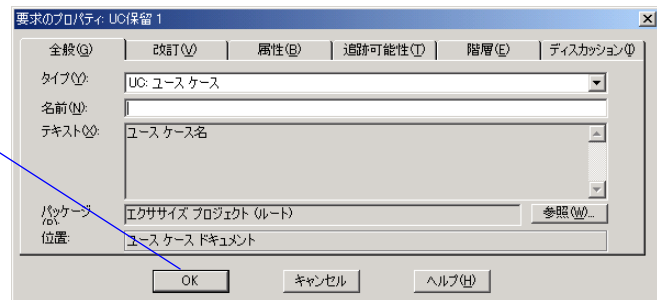


関連付けられたアウトラインを含む新規ドキュメントが、デスクトップ上に表示されます。アウトラインは、要求ドキュメントの作成開始ポイントを表し、ドキュメントの内容についてのテキスト説明を含みます。デフォルトのテキストを意味のあるプロジェクト データに置き換えます。

3 ドキュメント内でユース ケース名を作成し、要求として定義します。

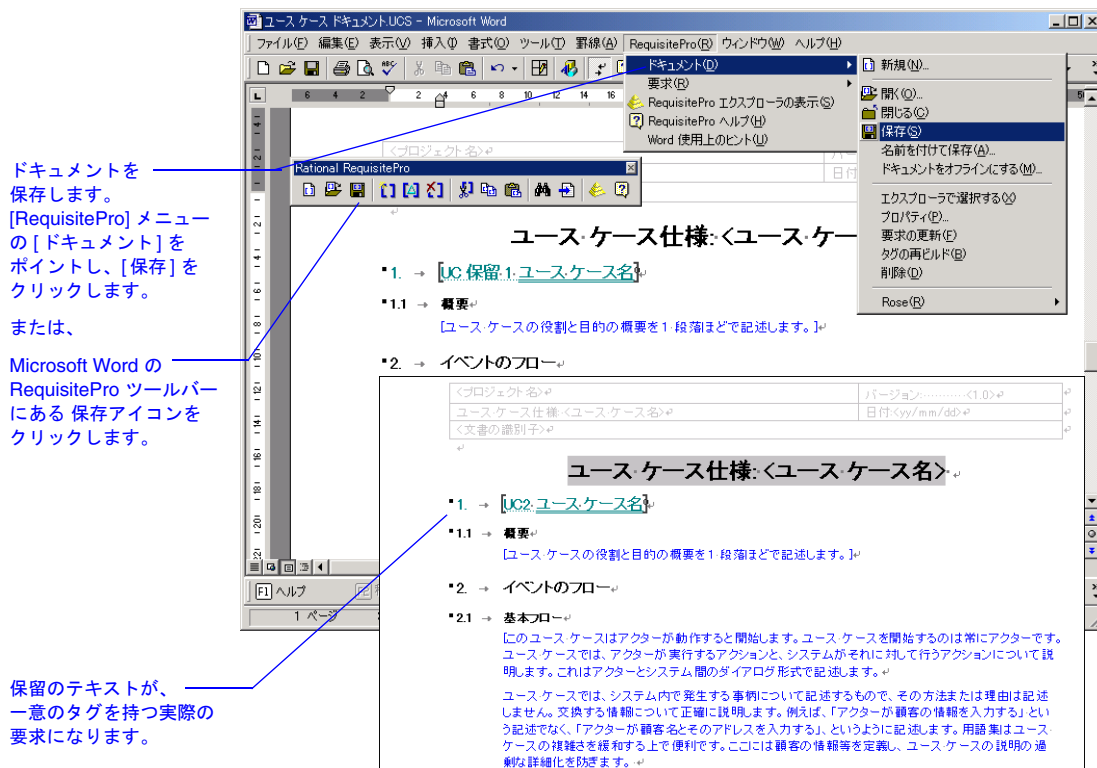


[要求のプロパティ] ダイアログボックスが開きます。要求のプロパティを設定して[OK] をクリックします。



選択したテキストが新規要求のテキストになります。

- 4 ドキュメントを保存します。これにより、要求がデータベースに追加され、ドキュメントがディスクに保存されます。



Rose と RequisitePro を使用したユース ケースの管理

ユース ケースは、グラフィック モデル、説明、属性、追跡可能性リンクなどで構成されています。ユース ケースをほかのすべての要求と共に管理することは、プロジェクトの状態の把握に役立ち、最適なシステムの構築を可能にします。

統合ユース ケース管理は、要求情報をユース ケース モデルに完全に統合します。統合ユース ケース管理を使用すると、要求属性を使用し、要求ドキュメントとユース ケースを関連付けることによって、ユース ケースを管理できます。この機能の利点は、リアルタイム ウィンドウを設定することにより、ユース ケース属性と追跡可能性を変更できること、改訂履歴を表示できること、Rose 内からドキュメントに説明を追加できることです。

例: RequisitePro の要求に基づいた、Rose でのユース ケースの作成

RequisitePro の要求に基づいて、Microsoft Word を使用して Rose で新規ユース ケースを作成します。

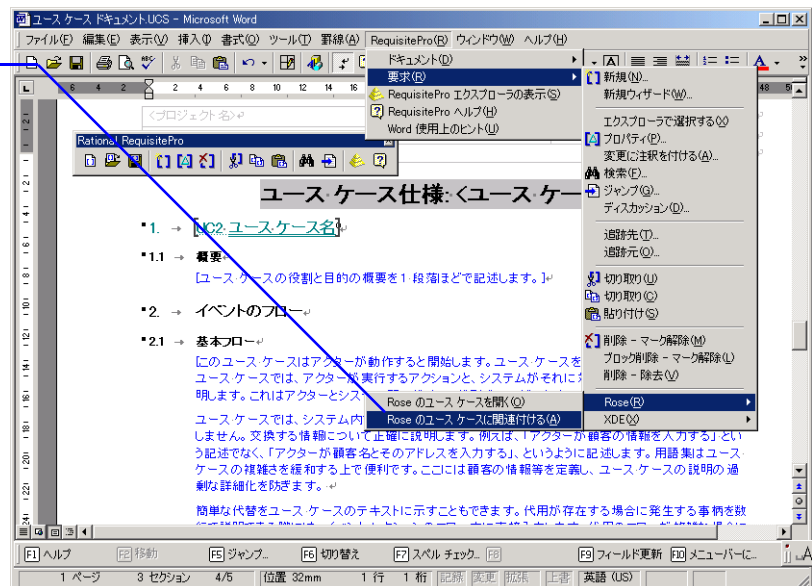
要求をクリックして
アクティブにします。

<プロジェクト名>	バージョン:.....<1.0>
ユース ケース仕様<ユース ケース名>	日付:<yy/mm/dd>
<文書の識別子>	

ユース ケース仕様:<ユース ケース名>

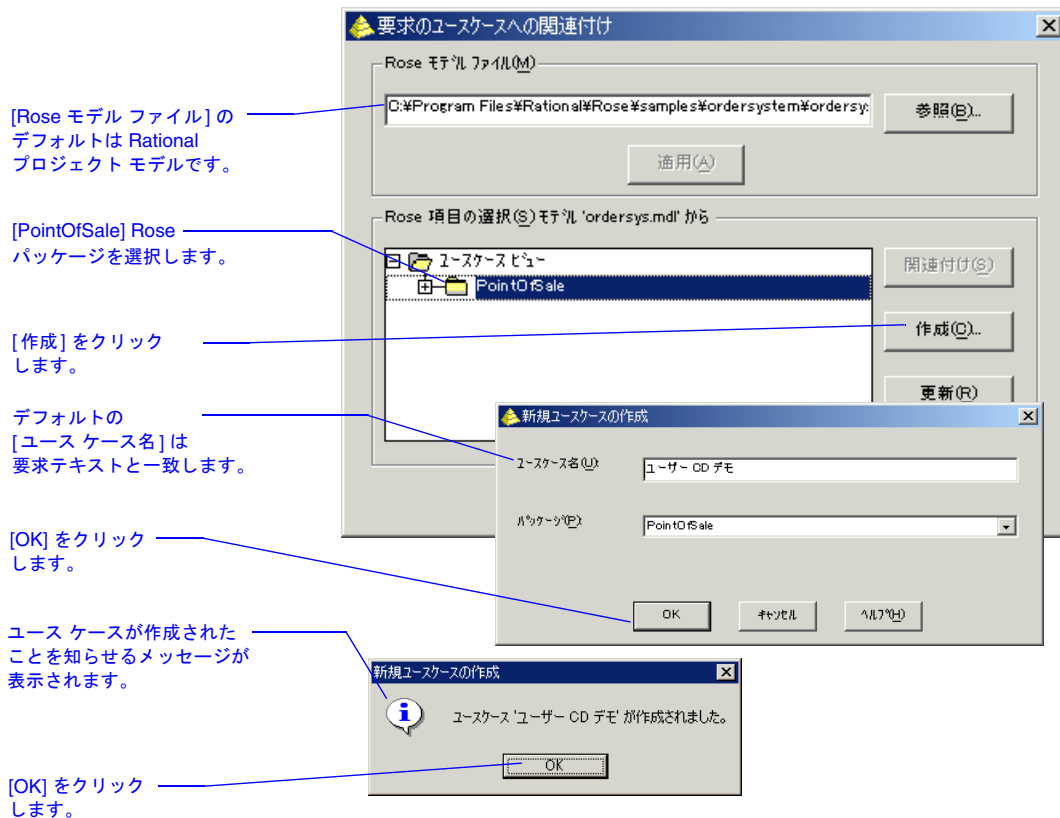
- *1. → **UC2. ユースケース名**
- *1.1 → **概要**
[ユース ケースの役割と目的の概要を1 段落ほどで記述します。]
- *2. → **イベントのフロー**
- *2.1 → **基本フロー**
このユース ケースはアクターが動作すると開始します。ユース ケースを開始するのは常にアクターです。ユース ケースでは、アクターが実行するアクションと、システムがそれに対して行うアクションについて説明します。これはアクターとシステム間のダイアログ形式で記述します。
ユース ケースでは、システム内で発生する事柄について記述するもので、その方法または理由は記述しません。交換する情報について正確に説明します。例えば、「アクターが顧客の情報を入力する」という記述でなく、「アクターが顧客名とそのアドレスを入力する」というように記述します。用語集はユース ケースの複雑さを緩和する上で便利です。ここには顧客の情報を定義し、ユース ケースの説明の過剰な詳細化を防ぎます。

[RequisitePro] メニューの[要求]をポイントし、
[Rational Rose のユース ケースに関連付ける]を
クリックします。



メモ: RequisitePro のエクスプローラまたはビューから Rose ユース ケースを作成する場合は、要求を選択して、[要求] メニューの [Rose のユース ケースに関連付ける] をクリックします。

[要求のユース ケースへの関連付け] ダイアログ ボックスが表示されます。



Rose の既存のユース ケースに要求を関連付けるには、[関連付け] をクリックしてから、パッケージを展開して、目的のユース ケースを選択します。

次に、RequisitePro から Rational Rose に切り替えて、ユース ケースをモデリングします。

メモ： 要求テキストと Rose 内の既存のユース ケースの名前が一致しない場合は、共通の名前とテキストの選択が要求されます。

例: RequisitePro から Rose への移動

選択した要求のコンテキスト内部から、RequisitePro と完全に統合されている Rational Rose を開きます。モデルと関連図を適用することにより、ユース ケースをさらに具体化します。

The screenshot shows the Rational RequisitePro application window. The 'Requirements' menu is open, and the 'Rose' option is highlighted. The 'Rose' option is located at the bottom of the menu, below 'Rose のユース ケースを開く (O)'. The 'Rose' option is highlighted in blue. The 'Rose' option is located at the bottom of the menu, below 'Rose のユース ケースを開く (O)'. The 'Rose' option is highlighted in blue.

要求をクリックしてアクティブにします。

[RequisitePro] メニューの [要求] をポイントし、[Rose のユース ケースを開く] をクリックします。

ユース ケース仕様: <ユース ケース名>

- 1. → [UC2. ユース ケース名]
- 1.1 → 概要
 - [ユース ケースの役割と目的の概要を 1 段落ほどで記述します。]
- 2. → イベントのフロー
 - 2.1 → 基本フロー
 - このユース ケースはアクターが動作すると開始します。ユース ケースをユース ケースでは、アクターが実行するアクションと、システムがそれに反応するアクションで構成されます。これはアクターとシステム間の関係を示します。これはアクターとシステム間の関係を示します。これはアクターとシステム間の関係を示します。

Rose のユース ケースを開く (O)

Rose のユース ケースに関連付ける (A)

Rose (R)

XDE (X)

Rational Rose がデスクトップで開いて、アクティブになります。要求のユース ケース仕様が開きます。

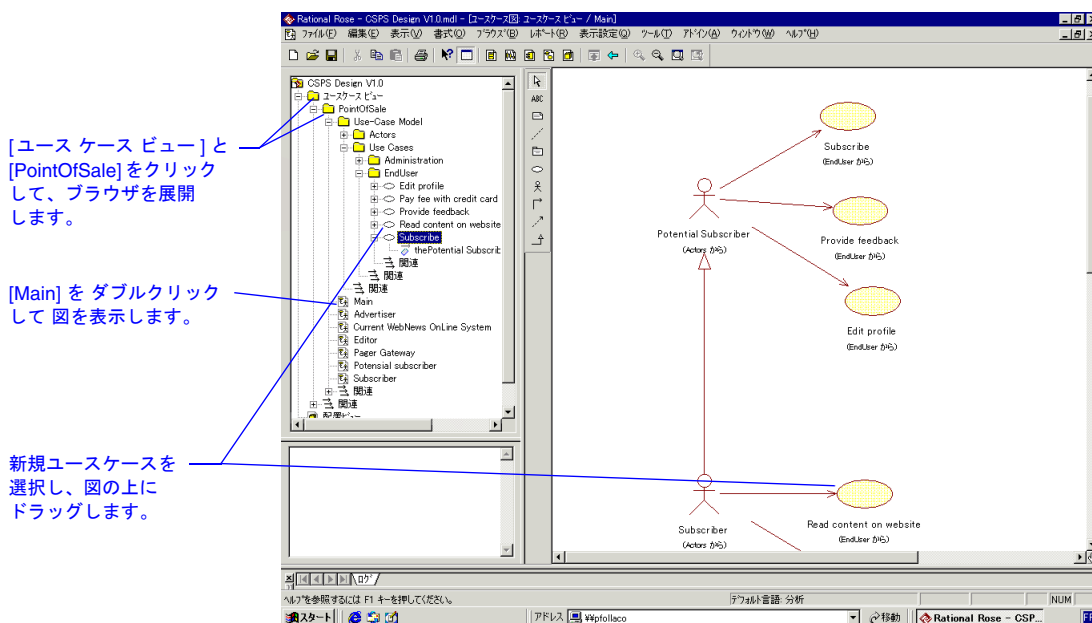
Rose でのユース ケースのモデリング

Rational Rose は、コンポーネントを作成、分析、設計、表示、変更、操作できるビジュアルモデリング ツールです。システムは、容易に伝達できるように実装されます。モデリングを通じて、要求の明確化、設計の簡素化、システム保守性の向上が実現します。

ビジネス アナリスト、データ アナリスト、システム アナリストは **Rose** を使用して、システムの動作やビジネスの動きをユース ケース図でグラフィカルに表すことができます。ユース ケース図は、システムがどのように使用されるかを外部 (またはアクター) の観点から表した上位レベル ビューで、システムの動作 (ユース ケース) をグラフィカルに表します。1 つのユース ケース図で、システムのすべてまたは一部のユース ケースを図示できます。

例: Rational Rose でのユース ケース図の作成

Rational Rose が RequisitePro で関連付けられたユース ケース要求から呼び出される場合は、そのユース ケースのユース ケース仕様のダイアログ ボックスが開き、ユース ケース仕様プロパティを編集できます。[OK] をクリックしてこの仕様を保存した後、以下の手順を実行します。



選択したユース ケースが図ウィンドウに追加され、そのユース ケースのタイトルが表示されます。ユース ケースを図に追加した後は、図のツール ボックスを使用して、関係、関連、依存関係、アクターを簡単に追加できます。

詳細については、『**Rational Rose ユーザーズ ガイド**』または **Rose** のオンライン ヘルプを参照してください。

Rational Rose からのユース ケースの管理

効果的なユース ケース管理を実現するには、ユース ケースの現在のステータスを記録し、ユース ケースの詳しい説明を記述するための統合ドキュメントも必要です。ユース ケース ドキュメントを **Rose** のユース ケース図と関連付けることにより、円滑なコミュニケーションを実現すると同時に、ユース ケースに関するすべての記述を 1 つのプロジェクトに格納することができます。ドキュメントにコメントを追加するのは 1 人だけではありません。**Rose** で作業している開発者も同じドキュメントにアクセスし、情報を入力できます。ユース ケースについての単一の共通ドキュメントを使用することにより、チーム メンバー間の情報伝達が最適化されます。全員が同じツールを使用するため、システムのデータをモデリングするデータ アナリスト、アクティビティ図をモデリングするビジネス アナリスト、システムをモデリングするシステム アナリストと、システム設計者の間で誤解が生じる余地がなくなります。

ユース ケースの属性は、**Rose** から、関連付けられた **RequisitePro** の要求で管理します。[要求] ダイアログ ボックスを開くと、デフォルトで [属性] タブが表示されます。要求情報を確認するには、[全般] タブと [改訂] タブを使用します。また、[追跡可能性] タブを使用すると、**RequisitePro** のほかの要求との追跡可能性関係を追加できます。

詳細については、**RequisitePro** オンライン ヘルプの「要求プロパティの概要」を参照してください。

例：属性とドキュメント

1 Rose のユース ケースと関連付けられた RequisitePro 要求ドキュメントを開きます。

ユース ケースを右クリック
すると、関連付けられた
ドキュメントが表示され
ます。

ヒント: アイコンをダブルクリック
してドキュメントを開くこともで
きます。

[ユース ケース ドキュメント] を
ポイントし サブメニューの
[開く] をクリックします。

関連付けられたユース ケース
ドキュメントが開いて、編集が
行えます。

仕様を開く(O)...
新規作成(N)
削除(D)
名前変更(M)
ユースケースドキュメント(U)
要求のバリエーション(R)
RequisitePro 関連付けの表示(V)...
開く(O)...
新規作成(N)...
関連付け(A)...
切り離し(D)...

ユースケース仕様: <ユースケース名>

*1. → [[KB ユーザー C.D. テキスト]]

*1.1 → 簡単な説明

説明では、ユース ケースのロールと目的を簡単に伝えます。この説明を満たすには、単一の段落で十分です。

*2. → イベントのフロー

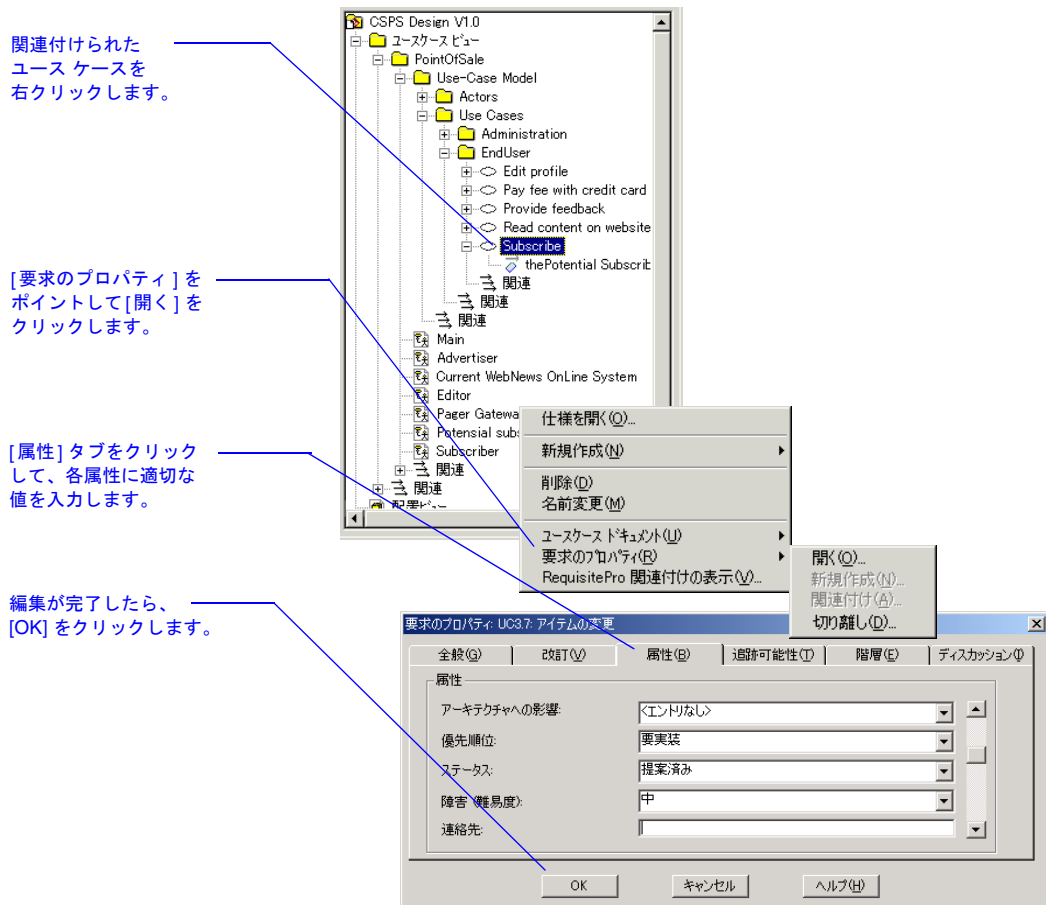
*2.1 → 基本フロー

このユース ケースは、アクターによって何かが実行されると開始します。ユース ケースは、アクターによって常に初期化されます。ユース ケースでは、アクターの実行内容と、これに対応するシステム側の応答動作を説明します。これは、アクターとシステム間のダイアログ形式で表わします。

ユース ケースでは、システムにおける実行内容は説明しますが、実行方法とその理由については説明しません。情報交換が行われる場合には、やり取りの内容を具体的なかつ明確に表してください。たとえば、アクターによってカスタム情報が入力されるという表現は、啓発的な表現とは言えませんが、アクターによってカスタムの名前と住所が入力されると内容がより鮮明になります。用語集は、ユース ケースの複雑さを常に管理するために便利なことも多く、カスタム情報などをここで定義しておく、ユース ケースが詳細データに埋もれてしまうのを回避できます。

簡単な代替であれば、ユース ケースのテキスト内に表記することもできます。代替の存在から発生した

2 ユース ケース属性の値を設定するには、以下の操作を行います。



詳細については、統合ユース ケース管理のオンライン ヘルプの「ユース ケースへの属性値の割り当て」と「関連ドキュメントを開く」を参照してください。

SoDA を使用したレポートの生成

SoDA は、RequisitePro、ClearQuest、ClearCase、Rose などのソフトウェア開発ツールから情報を抽出することにより、ソフトウェア ドキュメントの作成を自動化します。SoDA では、Word で作成されたテンプレートを使用して、抽出した情報をレポート形式にまとめます。SoDA には、あらかじめ定義された数多くのテンプレートが備わっています。また、操作が簡単なテンプレート作成ツールを使用して、独自のテンプレートを作成することもできます。

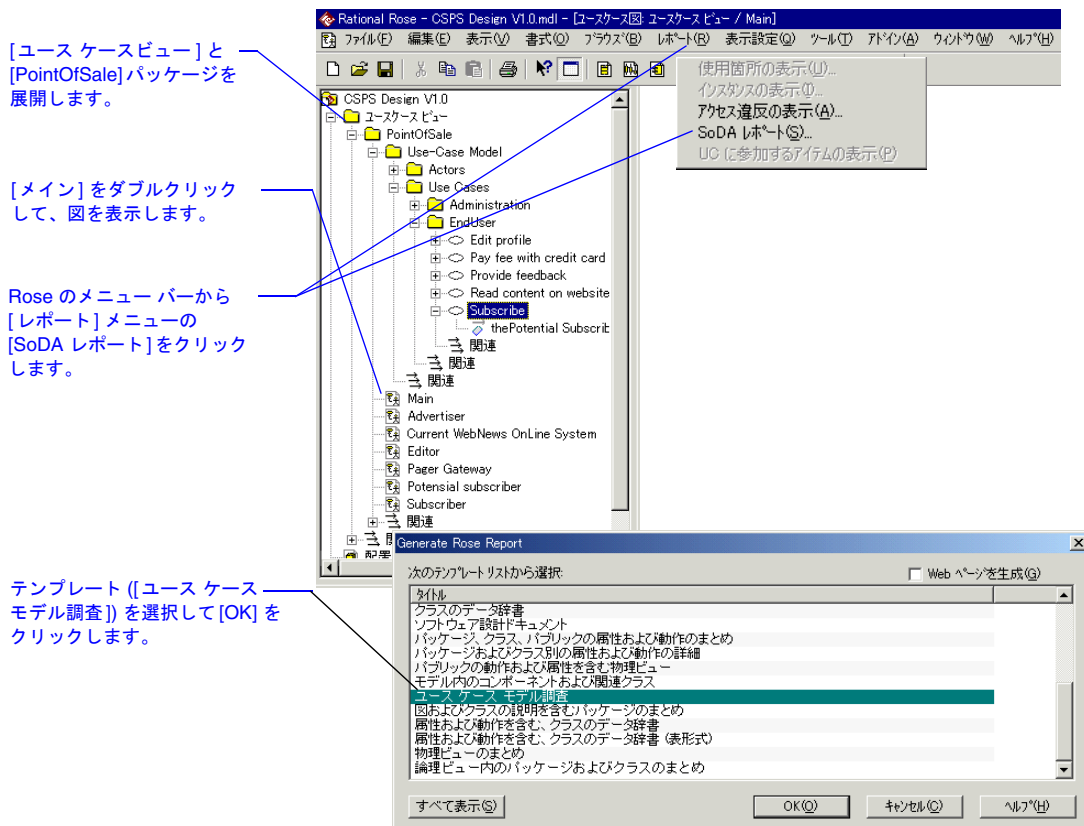
ユース ケース モデル調査

ユース ケース モデル調査は、ユース ケース モデルがどのようにパッケージに構成されているか、どのユース ケースとアクターがモデルに含まれているかなど、ユース ケース モデルについての総合的な情報を示します。このレポートを使用して、以下の各段階のユース ケース モデル全体を記述できます。

- 初期段階: システムの範囲を定義したとき。
- 分析段階: ユース ケース モデルをひとつおりに作成したとき。
- 構築段階: 要求が完了したとき。

ユース ケース モデル調査では、テキスト情報と図表を組み合わせた簡潔なレポートが作成されます。これにより、必要なすべての最新情報を参照できます。このレポートは、ユース ケース モデルのさまざまな関係者 (顧客、利害関係者、設計エンジニア、ユース ケース作成者、設計者、ユース ケース設計者、テスト担当者、管理者、レビュー担当者、ライターなど) が使用します。

例：ユース ケース モデル調査レポートの生成



Web 上で使用するレポートを生成する場合は、[Web ページを生成] チェック ボックスをオンにします。このチェック ボックスをオンにすると、SoDA レポートが *.HTML 形式で保存され、Web サイトで公開できるようになります。レポートを Web サイトに配置することにより、外部の顧客やリモート チーム メンバーがそのレポートを参照し、プロジェクトの最新情報を確認することができます。このチェック ボックスがオフの場合、SoDA レポートは Microsoft Word (*.doc) 形式で保存されます。

詳細については、SoDA for Word オンライン ヘルプを参照してください。

Rational TestManager

Rational TestManager は AnalystStudio のテスト体系化コンポーネントです。このコンポーネントを使用して、ソフトウェア開発工程全般でテスト アセットをすべて体系化し、管理します。Rational TestManager は、入力、実行条件、予想される結果を指定したテスト ケースの作成を開始する単一の中心的な場所であり、これらのテスト ケースをスクリプトやスイート (スケジュール) を通じて実行し検証する拡張可能な環境です。また、ソース コードやビジュアル モデルなどのテスト アセットを体系化して、テスト担当者と開発者のコミュニケーションを円滑にする役割も果たします。その後、TestManager ではテスト計画に従って実行が評価され、詳細な情報レポートが作成されます。

テストの計画と設計は、通常は開発サイクルの分析段階で早期に開始します。新しいソフトウェアに関する情報が増えると、テスト アクティビティを完了するために追加のテストの計画と設計が必要になります。

Rational TestManager の詳細については、ソフトウェア付属のオンライン ドキュメント CD-ROM に収められている『Rational TestManager User's Guide』を参照してください。

統一変更管理 (UCM) モデルの実装

プロジェクトの成果物がすべて定義された後、Rational ClearCase LT を使用して Rational プロジェクトのベースラインを作成する必要があります。プロジェクト管理者は、Rational プロジェクトの作成時に、そのプロジェクトの UCM 機能を有効化する必要があります。この処理が完了すると、アプリケーションの開発サイクルが進むにつれて、プロジェクトの特定のマイルストーンで成果物のベースラインを容易に作成できます。

AnalystStudio の管理と カスタマイズ

3

この章は、Rational Suite AnalystStudio のプロジェクト管理者を対象としています。ここで説明する内容は次のとおりです。

- 管理者による Rational Administrator プロジェクトの作成を支援する Rational 提供のツール。
- ClearQuest と RequisitePro の統合に必要な基本セットアップ。

また、以下のカスタマイズの概要も説明します。

- RequisitePro
- ClearQuest
- SoDA
- プロジェクト Web サイト

Rational Administrator プロジェクトの概要

Rational Administrator プロジェクトは、Rational の成果物の論理的な集合です。成果物は、プロジェクト管理者が Rational Administrator アプリケーションで作成します。Rational Administrator プロジェクトによって、アナリストは、Rational Suite ツール間の統合を利用できます。

AnalystStudio で作業する場合、Rational Administrator プロジェクトは一般的に次の要素から構成されます。

- アナリスト (AnalystStudio スキーマ) に調整された 1 つの ClearQuest データベース
- RequisitePro の 1 つのプロジェクト
- 1 つ以上の Rose モデル ファイル

Rational Administrator インターフェイスは、プロジェクトの管理を一元化します。このインターフェイスを使用して、プロジェクトを作成または変更します。プロジェクト作成後は、プロジェクト管理者が ClearQuest および RequisitePro の成果物にセキュリティを追加し、構成管理下に Rational Administrator プロジェクトを配置します。

詳細については、オンライン ドキュメント CD-ROM に収められている『Rational Suite 管理ガイド』を参照してください。

Out of the Box (OOTB) 成果物の使用

Rational Suite では、Rational Administrator プロジェクトの開始を支援するサンプル マテリアルを提供します。

- Rational RequisitePro には、新規プロジェクトを作成するためのプロジェクトテンプレートがあります。これらのテンプレートには、事前定義されたドキュメントタイプ、要求タイプ、属性が定義されています。また、要求管理計画や用語集ドキュメントなどの成果物もあります。Rational Rose ユース ケースと ClearQuest 拡張依頼、またはほかの ClearQuest レコードを統合する RequisitePro プロジェクトを作成するには、ユース ケース テンプレートを 사용합니다。
- Rational Suite インストール プログラムでは、Rose のインストール先ディレクトリに Rose モデルのサンプルが格納されます。デフォルトの場所は、`C:\Program Files\Rational\Common\OutOfTheBox\rose frameworks\rup framework.mdl` です。
- Rational Suite インストール プログラムでは、ClearQuest のインストール先ディレクトリに AnalystStudio スキーマ ファイルが格納されます。デフォルトの場所は、`C:\Program Files\Rational\ClearQuest\Schemas\AnalystStudio.schema` です。

AnalystStudio を使用して新しい開発プロジェクトを開始するとき、上記のサンプルを使用すると便利です。サンプルを使用するときは、ClearQuest のレコードタイプと状態、RequisitePro の要求タイプとドキュメントタイプ、Rose モデルのフレームワークなど、必要なデータが既に作成されています。したがって、セットアップ時間を大幅に短縮できます。

詳細については、オンライン ドキュメント CD-ROM に収められている『Rational Suite 管理ガイド』を参照してください。

ClearQuest と RequisitePro の統合

RequisitePro と ClearQuest の統合ウィザードを使用すると、新しい統合の設定や、既存の統合の再設定または修復を簡単に行えます。このウィザードでは、データベース、プロジェクト、関連付けのテストと検証も行うため、新しい統合と既存の統合の問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

以前のバージョンの Rational ソフトウェアでは、統合の設定を ASCQISetup.bat ファイルと ASCQISetup.exe ファイルで行っていましたが、現在のバージョンからは、それらのファイルの代わりとしてこのウィザードを使用できます。既存の統合設定は、従来どおり ASCQISetup.bat と ASCQISetup.exe で変更することも、このウィザードを使用して変更することもできます。

詳細については、オンライン ドキュメント CD-ROM に収められている『Rational Suite 管理ガイド』を参照してください。

ClearQuest スキーマのカスタマイズ

ClearQuest スキーマとは、変更依頼データベースの構造です。スキーマにより、変更依頼レコードごとに以下の情報が設定されます。

- レコードタイプの定義
- レコードの発行と変更に使われるフォーム
- フィールドの定義と動作
- レコードの状態
- レコードの状態を変更するためのアクション
- フィールドとアクションをさらにカスタマイズするため、
Visual Basic Script または Perl で記述されたフック

ClearQuest のスキーマは、スキーマリポジトリに保存されています。ClearQuest では、通常、1つのスキーマリポジトリと1つまたは複数のユーザーデータベースが提供されます。ClearQuest と RequisitePro の統合を使用する開発計画を立てる場合、スキーマのカスタマイズに注意してください。統合を使用する場合は、Rational が提供する AnalystStudio スキーマまたは Enterprise スキーマを使用する必要があります。

詳細については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』の「ClearQuest の管理とカスタマイズ」の章を参照してください。このマニュアルでは、ClearQuest の使用方法の概要が説明されています。また、ClearQuest 管理者が変更管理ワークフローに合わせて ClearQuest をカスタマイズできる方法の例も紹介されています。

スキーマをカスタマイズするには、複数の作業が必要です。基本的な手順は次のとおりです。

- **データの定義:** ClearQuest で収集して管理するデータを定義するには、レコードタイプとフィールドを使用します。
- **状態モデルの定義:** (『Rational ClearQuest 管理ガイド』の「状態モデルの定義」を参照してください。)各レコードタイプにそれぞれ異なる状態モデルを定義します。状態モデルは、状態、状態タイプ、アクション、フィールドの動作により構成されます。
- **フォームの構築:** 『Rational ClearQuest 管理ガイド』の「フォームの操作」を参照してください。
- **フックの追加:** 『Rational ClearQuest 管理ガイド』の「アクションフックの追加」と「ワークフローのカスタマイズにおけるフックの使用法」の章を参照してください。

メモ: ClearQuest には、事前定義された複数のスキーマがあります。これらのスキーマは、「そのまま」使用するか、手順に応じてカスタマイズできます。これらのスキーマの一覧については、『Rational ClearQuest 入門』の「ClearQuest の管理とカスタマイズ」を参照してください。

スキーマの詳細については、ClearQuest Designer オンライン ヘルプの「スキーマの操作」と「新規スキーマの作成」の項を参照してください。

ClearQuest を介して Web 上で有効になる機能

ClearQuest Web は、ClearQuest 変更依頼管理アプリケーションへの Web インターフェイスです。ClearQuest Web を使用すると、障害と変更依頼を追跡し、開発する製品にとって最も重要な問題点と拡張点を判断できます。さらに、開発サイクルの各段階におけるアプリケーションまたはコンポーネントの品質を決定できます。また、機能の追加、拡張、バグ修正が発生したリリースを追跡することもできます。

ClearQuest Web を使用して、ブラウザから次の操作を実行できます。

- 変更依頼の登録
- 既存レコードの表示と修正
- 事前定義されたクエリーの実行
- 新しいクエリーの作成と実行
- 事前定義されたグラフとレポートの表示

ClearQuest Web を使用すると、Web インターフェイスを利用して、ユーザーへのサポートを拡張することができます。ユーザーは、ClearQuest Web を利用して、リモート サイトから ClearQuest のデータにアクセスできます。ClearQuest Web は、一部の例外を除いて、ネイティブの Windows ClearQuest クライアントと同じ機能をサポートします。

ClearQuest Web の設定については、『Rational ClearQuest 管理ガイド』の「ClearQuest Web の管理」の章を参照してください。

RequisitePro のプロジェクトのカスタマイズ

RequisitePro のプロジェクトのすべてのコンポーネントは、開発チームのニーズに応じてカスタマイズまたは構成することができます。プロジェクトを作成した後、要求管理プロセス全体とプロジェクトの開発工程全般を通じて追跡が必要であると開発チームが判断したデータに基づいて、成果物をカスタマイズまたは作成できます。RequisitePro のプロジェクトでカスタマイズできる基本的な成果物は次のとおりです。

- パッケージと、パッケージ内の成果物の構成
- 要求のタイプ、プレフィックス、スタイル、色、キーワード
- 属性と属性値
- ドキュメントおよびドキュメント タイプ

- データベース タイプ
- プロジェクトのセキュリティ

詳細については、『Rational RequisitePro ユーザーズ ガイド』を参照してください。

SoDA テンプレートの作成

SoDA for Word に備わっているユーザーフレンドリなテンプレート ビューを使用すると、SoDA テンプレートの新規作成や、既存の SoDA テンプレートでのコマンドの追加、変更、削除を行うことができます。テンプレート ビューでは、SoDA テンプレートを最も簡単に作成または拡張することができます。

テンプレート ビューを使用してコマンドを追加または変更した後、テンプレートに戻り、書式変更 (見出し、一覧、箇条書きの追加など) を行うことができます。

各ドメイン内の情報を十分に理解し、綿密なドキュメント計画を立てることで、SoDA テンプレートの生成後に期待通りの結果が得られます。

詳細については、『Rational SoDA for Word User's Guide』を参照してください。

成果物用のプロジェクト Web サイトの作成

Rational Unified Process をカスタマイズするには、まず開発個別定義書を記述します。開発個別定義書は、汎用の Rational Unified Process が組織に適用される方法と、実行するプロセスの概要を示す必要があります。開発個別定義書は、プロジェクト用にカスタマイズされた Web サイト (プロジェクト Web) に含めることができます。開発個別定義書に加え、プロジェクト Web サイトでは次のプロジェクト要素を公開できます。

- プロジェクトのロゴ
- プロジェクトの成果物
- プロジェクトのライブラリ
- 反復ワークフロー
- ディスカッション フォーラム
- ツール情報

Rational Unified Process には、Web サイトテンプレート (**RationalProjectWebExample**) があります。このテンプレートは、Rational Unified Process のインストール時にインストールされます。このテンプレートは、ファイル システム内で Rational Unified Process と同じレベルに保存されます。

ファイル名	ファイルの内容
RationalProjectWebExample	プロジェクト Web サイトのテンプレート
RationalUnifiedProcess	Rational Unified Process

「RationalProjectWebExample」のコピーを作成して、独自のプロジェクト Web を構築します。例を次に示します。

サンプル ファイル名	内容
MyProjectWeb	自分のプロジェクトの Web
RationalProjectWebExample	プロジェクト Web サイトのテンプレート
RationalUnifiedProcess	Rational Unified Process

メモ：[RationalProjectWebExample] フォルダは、Rational Unified Process と同じディレクトリレベルに配置されている必要があります。これは、Rational Unified Process のページを参照するハイパーリンクが RationalProjectWebExample 内にあるためです。RationalProjectWebExample を移動する場合は、ハイパーリンクを変更する必要があります。

プロジェクト Web サイトのテンプレートを起動するには、**RationalProjectWebExample/index.htm** というファイルを探してください。

Microsoft FrontPage の使用法を含むプロジェクト Web のセットアップについては、RUP プロセス エンジニア ツールキットのマニュアルのプロジェクト Web についての RUP ツールキットページを参照してください。

付録

要求ワークフロー

